

広報 いまり

発行 昭和57年1月1日 伊万里市役所総務部秘書課 (☎32111 〒848)

№.335

おめでとうございます

1982年の幕あけ

大空にまいあがる凧に

伊万里市発展の夢と希望をのせて

高く より高くまいあがれ

'57

1月

〈人口〉男29,243人 女32,418人 計61,661人 (前月比+64人) 〈世帯〉16,987世帯 (12月1日現在)

新年 賀 謹

市民の皆さん、あけましておめでとございませう。

今年は何の内外ともかたつてないきびしさが予想されますが、人間は苦勞をしている時が本当の力がつくもので、私は張り切つて新年を迎えました。

さて、今年の課題はいよいよ地方の自立以外にはなく、私は何よりも

市民六万人の
総市長アイデ
イア運動を提
唱したいと思
います。それ
は「私が市長
であれば」と
いう観点から

伊万里市の浮揚策を提言して
もつのです。

私の考えの一例を挙げれば、
これからはあらゆる面に伊万
里という名を冠して伊万里の
銘柄を統一し、各分野で伊万
里のシンボルづくりに努力い
たします。

先ず「産業のシンボル」と

しては伊万里湾に海洋温度差
発電を含めて新エネルギーの
基地をつくり、内陸部では一
〇産業など未来の先発産業を
開拓し、また転作の農産物加
工場を集積して、フルーツ観
光に加えてワイン・ステーク
・クルマエビ・伊万里漬など
の郷土料理を複合した「食へ

を配し、「健康のシンボル」
では厚生年金センターの完成
をいそぎ、国見台運動公園と
併せて九州規模の大会誘致に
努め、さらに一市民一スポー
ツ運動を起して体力づくり日
本一を保持し、また「教育の
シンボル」では未来産業の要
請する労働の資質の向上に呼
応して短大や専門
学校を招へいし、
農村地帯は国営総
合農地開発事業で
産業基盤の総仕上
げをすると共に
「コミュニケーション
シンボル」として
「コミュニケーション憲章」をつ
くり地域の特色を打ち出した
と思っています。

る観光地「づへりをめざした
と思っています。

「広域的シンボル」では歴
史遺産の山ノ寺顕彰や地域事
業として自治省から指定を受
けた潘窯公園などを推進し、
「集いのシンボル」では川北
に市民会館を中心として社会
福祉会館や公民館・図書館等

以上はまだその一部にすぎ
ませんが、総市長によつて市
政の全般にアイディアが出て
くればすばらしい伊万里がめ
ざせます。市民の皆さん総力
をあげて困難な八十一年を乗
り切りましよう。



伊万里市長
竹内通教

伊万里市浮揚の シンボルづくりを

(竹)

食どころか衣食住を共にし
ているが、そのもととは犬が
恩義を感じて人間の身を守
ってくれるからで、桃太郎
のおとき話でも犬、猿、雉
の同伴の中で犬は知仁勇の
仁をあらわし、忠犬、名犬
はハチ公やラッシーに限ら
ず数多くの例話がある。
守るということは主客を
かえれば攻撃となり、警察
犬や猟犬など相手方にとつ
ては恐ろしいものにもなる。
人間と動物のちがいは自
ら学習するかしないかにあ
るが、犬は訓練によっては
記憶と判断の知的能力にお
いて他の動物よりもすぐれ
また勇氣においても身を培
して突進してゆく。
犬については他面、犬死
犬侍などマイナスの表現も
見受けられるが、これは犬
を悪くいったのではなく、
身近にあって比較しやすい
動物にも劣る人間をいまし
めたものと思われる。
最近の青少年問題や交通
事故の激増をみていると道
義や社会ルールなきが如き
ありさまで、せめて今年は
成年だから犬が仁義を尽し
てくれるにふさわしい人間
社会でありたい。

あけまして

おめでとうございませす

輝かしい新年を迎え

市民のみなさんのご多幸を

お祈りします

昭和五十七年 元旦

伊万里市議会議員一同

本年は皆様への年賀状は出さな
いように議員一同申し合わせて
おりますので、よろしくご了承
の程お願いします。



“はたち”のみなさん

国民年金に 加入しましゅう



青らを愛読して下さる皆
さん、新年おめでとうござい
ます。

この天地自然の現象やは
たらきを昔の人は、陰陽、
五行、十干、十二支であら
わし、いまもいろいろの面
で人間生活の上に影響を与
えているが、陰と陽の二、
そして五・十・十二という
数は、数のとり方の決め手
のようで、数の構成は十進
法でできており、五は手や
足の指に見ることく、二つ
で十全となる片方のまとも
りの姿であり、十二は今も
一年十二月の四季の構成に
存続し、二などは最新鋭の
コンピュータの二進法にな
くてはならぬ数であり、私
は天地自然の真理の中に不
滅のものがあることを信ぜ
ざるを得ない。

それはさておき今年は十
二支の中の戌年で、なぜ十
二の動物だけが子・丑の順
序できめられたのか分らな
いが一番人間の身近にある
ペットの犬など人間と寝



成人おめでとう

社会人として新しいスタート

1月15日は成人の日

1月15日は「成人の日」。今年は674人の方が晴れやかに成人式を迎えます。おとなになったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年の社会への「門出」をお祝いし励ましましょう。成人式は、市民会館で10時から行います。

明日へ“はばたけ”

田中日登美さん

(波多津町煤屋)

成人式、この日は、私たちに
とって新たな出発点ともいうべ
きでしょう。



私たちは、
人生への可能
性を秘め、ま
た未来へ向っ
て生きる特権をもっています。

今の大人の世界、私にとって
決して美しく写るものではありません。このまっただ中に入り
こんで生きていくのだと思うと、
ちょっとこわいようでもあります。今までのように、世の中に
甘えていたんではいけないと思
います。

若い時には失敗もあると思
います。けど若い時の失敗は自
分にプラスになることだってあ
るし、十分とりかえす時間もあ
ると思います。失敗をおそれた
んではいけません。

いよいよ成人として社会は私
を受けとめるでしょう。

今は20才、つらいこと、楽し

いこと悩むことだってたくさん
あるでしょう。しかし、誠実に
そして自分自身を大事に、社会の
一隅を照らす人になりたいと思
います。

副島洋明さん

(松浦町岳坂)

20才、社会人となった今、と
まどいを感じますが、私の人生
感について述べますと、農家の
後継で現在農業を営んでいます。
今の農業経営は考えさせられる
面もありますが、これから
歩む道のりは
幅広い勉強を
もとに努力を



重ね、自分の手、自分の力で、
確実なものにし、私の世界を築
き、目標を見定め、大きく飛躍
し前進したいと思
います。

新成人としての自覚は、気持を新
たに、自分自身を見つめ直して、一
個人として自立し、責任感を持って
世の中を見つめ、一日一日を価値あ
るものにしたいと思
います。

はたち
20歳のころ



市助役
富村繁雄

昭和23年の東京はいまだ戦
災の傷跡が残る街に闇市が繁
昌し、闇米、闇タバコが幅を
きかせていました。

南京虫、蚤、虱に悩まされ
る学生寮の一室で洗面器で煮
た雑炊をすすりながら学友と
「日本の将来は、食糧増産は
栄養食品の開発は」と議論し
合ったのですが、所詮空腹
には勝てず「白米を腹一杯食
べられる時代が来るだろうか」と焦燥の毎日で、食糧過剰、
栄養のとり過ぎに悩むことな
ど夢のまた夢の頃でした。

成人式は

平服で参加を

晴れて成人式を迎えられる皆
さんおめでとうございます。

成人式は、1月15日午前10時
から市民会館で行います。

今年の成人該当者は、昭和36
年4月2日から昭和37年4月1
日までに生れた方です。

毎年服装の華美が問題になりま
すので、努めて平服で参加しまし
ょう。

農業振興対策など2億3,545万円補正

第4回定例市議会

第4回定例市議会は、12月8日から23日まで開かれ昭和56年度一般会計や特別会計の補正予算をはじめ、土地改良事業認可申請に伴う議案など22件が審議可決されました。

一般会計152億1,717万円

昭和55年度一般会計に2億3,545万円を追加し、予算総額は152億1,717万円になりました。

今回の補正の主なものは、公共事業などの認承決定による事業費及び補助金の追加のほか、市民から要望の多い足もと道路の舗装などに要する経費や伝染病隔離病舎建設負担金、小中学校施設などの維持補修費、災害復旧工事に要する経費などです。

足もと道路の整備

市民の要望が最も多い、足もと道路の維持補修資材や急傾斜舗装用生コン代など1,500万円、市単独事業として、舗装事業費1,500万円を追加するとともに舗装の延長を確保するため、事業費の組替を行いました。

公園事業では、円造寺公園事業(旧上水道水源地)が新たに認承決定されたことに伴い、用地購入費などの経費として870万円が追加されました。

果樹関係に新規補助

果樹の生産から出荷体制の整備事業に2,757万円、温州みかんを温州みかん以外のみかんに切替えた場合の補助金1,402万円が新規補助金として追加されま

した。このほか新規事業として畜産や果樹の組合に対し農用地利用増進特別対策事業補助金833万円、大豆や麦などの転作連担団地化促進対策事業補助金1,322万円、麦の品質改善など生産の合理化対策事業として1,443万円が追加され、農林水産業関係では1億881万円が補正されました。

隔離病舎建設に負担金

伝染病隔離病舎(市民病院横)は、昭和31年に建設されていましたが、老朽化しているため、このほど伊万里市、有田町、西有田町が共同で、現在の場所に



▲11月26日に伝染病隔離病舎起工式

総事業費1億6,000万円を投じ、新しく建設することになり、11月26日起工式がありました。伊万里市の負担金として3,102万円が計上されました。



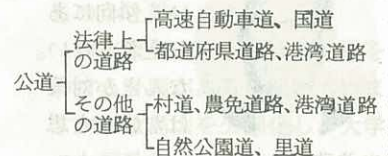
みんなの市役所

建設部 豆知識

建設部の主な仕事は、道路や河川の管理、新設改良、舗装、維持補修のほか、災害復旧、市街地の区画整理、下水道の建設、公園の維持管理など直接生活に密着した事業を行っています。

この事業の道路や河川、公園などの敷地は公共用財産と呼ばれ、国や市町村が管理する行政財産ですから、個人が占用したり埋立てたりすることはできません。

また、一番関心の深い道路については、公道と私道に分かれ公道は次のように区別されます。



公道については個人が勝手に閉鎖したり、料金を徴収することはできません。問い合わせは ㊤ 2111 内線 334 建設課管理係へ。

新春広報座談会

あなた

市 政

広報は、市の行政の内容や、市内各地の出来ごとを市民の皆さんにお知らせして、また市民の皆さんからの意見を市政に反映させていくため、皆さんから親しまれる広報づくりに励んでいます。今回は、各地域において行政の第一線で活躍されている区長さん方の、「市政を語る」をテーマに広報新春座談会を開きました。

高令化社会の対策を

岩崎静馬さん(大川内町)

どこの家でも老人ばかりで、若い者がいない。みんなよそへ出ていくので部落でもいろいろ支障をきたしている。最近どうなることかとつくづく思う。若い者が地元に残るような手だてを考えると市にやってもらいたいことがあります。市長さんもお忙しいと思いますが、地域に出かけて現地を視察し、実態をさらに知ってほしい。



伊万里と云えば「何か」を

溝江英一さん(松浦町)

唐津は松原、武雄は温泉というように名物がある。伊万里といえば『何だ』と呼ばれるようなものを今年では。ラワン材などを積んだ大型車両などで市民は交通の危険にさらされている、九州横断道路の取付道路として産業道路の建設を。いま後継者づくりに頭を痛めているが、内陸部にも農業しながら働けるような企業を誘致してほしい。



産業道路の建設を

永尾 勉さん(山代町)

伊万里市の発展は伊万里湾の開発なくしては考えられない。今後の企業誘致については将来性のある公害のない企業を誘致してほしい。企業が立地すると企業関係の車両など交通量が増加。危険と渋滞をきたすので、産業道路の建設を。山代地区には漁港が残っているが漁港の整備と併せてヨットハーバーでも建設したらどうか。



地域に定着する対策を

杉山与平さん(黒川町)

七ヶ島工業団地の造成により、地域の土地の価格が上がり、町の形づくりを阻害している。名村造船所の従業員、家族の方が地元から離れていく傾向にあり定着しない。なんとか対策はないかと思えます。黒川小学校建設は、地元でいろいろ問題もあり進展しません。1町1校でいくのであれば、教育委員会はもっと積極的に基本的な方針を地域に説明してほしい。



地域に運動施設を

武藤 弘さん(東山代町)

体力づくりということで、スポーツが盛んになり、体力の向上とともに明るい心豊かな社会づくりができていますが施設の不充分さを感じる、地域に運動施設の整備を図ってほしい。各町の公民館は、集いの場、学びの場となって活発に各種の行事が行われているが、あまり「会」の種類など組織が多くなったので少し整理、統合してはどうかと思う。



飲料水対策を

前田不可士さん(南波多町)

現代の日常生活では飲料水の確保は最大の関心事です。未給水地域の対策を図ってほしい。青少年の非行が大きな社会問題となっているが、幼年時代の教育を再考する時でないか、南波多町では、あいさつ運動を推進しているが、小さいことでも実践が必要である。伊万里市が発展していくためには、明るい町づくりをして、若者を立派に育てなければならない。



考える

キャンペーン
シリーズ No.37

語る

特色を生かし経済振興

伊万里市長 竹内通教

これまで産業基盤を土台として、伊万里湾に企業を立地するための条件整備、都市環境の整備として駅前通りや、市街地の区画整理また農村地域では農地開発圃場整備などをすすめてきました。

これからは、その基盤を开花させなければなりません。

現在、全国的に不景気で企業の進出も停滞していますが、昨年は、陽和産業やセメントの2企業の進出が決まりました。

これからも伊万里に適した将来性のある企業、例えばIC産業などの誘致を図らなければと思っています。

また、農家の方が転作作物を安心して栽培できるように、農産物の加工工場をつくり、契約栽培などを進めなければなりません。

昨年、私は自立自治元年ということを申しましたが、今年は国の財政が厳しくなると思われます。そこで自分のところは、自分で力をつけていく以外にない。そのためには、伊万里の特色を生かした経済の振興を図っていくつもりです。

伊万里の文化を生かして

武富靖之さん(大坪町)

市長さんは、文化的な方面に力を注いでおられますが、大変喜ばしいことだと思います。



伊万里には文化があります。文化は、伊万里が持っている最も大きな力です。やきものを中心にでているが、まだたくさんうずもれた文化がある。これを啓蒙し実践してほしい。他の都市にまけないものを持っているので、都市公園などを建設する場合など、歴史を加味して造れば、これも伊万里市の観光の「ツマ」にはなる。

なにか思いきったものを

斎藤正雄さん(伊万里町)

今までの市政を振り返って印象に残るのは伊万里川が拡幅により市民が災害の恐怖から解放されたこと。また立花台地がニュータウンとして開発され、すばらしい住宅地として町づくりができたことです。



「これからよそにないものを何かひとつ思いきったことをしてほしい。例えば、今国鉄松浦線の廃止が問題になっていますが国鉄に代って民間の私鉄でも走らせ、その資本を導入し、伊万里を大レジャー基地にしてはどうでしょうか。」

ダム建設を

吉田町造さん(波多津町)

市役所に障害者の方が行っても不便をきたさないようもう少し対策を考えてほしい。



簡易水道のない地域や、水量が不足している地域があります。ダムを建設して水源の対策を図っては。波多津町には泉源(温泉)がありますが、これをなんとか開発して市民の方や、観光面で活用してはどうかと思います。

牧島山を公園に

川原源太さん(牧島町)

行政区をはっきりわかるようにしてもらいたい。市内各地に問題点があると思いますが、牧島地区では、



松島、下松島が、伊万里町との関係で、事柄によってあっちになったり、こっちになったりする。旧伊万里町に4町あるが、これを、中央区、東区と云うようにすっきりできないものかと思っています。

将来牧島山から久原間に橋をかける計画があると聞いていますが、牧島山を公園化し、大学でも誘致して、また、牧島山から釘島にロープウェイでもかけるとすばらしい観光地になるのでは。

※発言順不同

ありがとう あなたの善意

心あたたまる町の話

～その36～

またやって来たハーモニカおじさん

全国の福祉施設を慰問する福島さん

10年の長い間、ハーモニカを片手に全国の老人ホームや福祉施設を慰問している人がいます。

この方は、奈良県天理市に住む福島秀治さん(60歳)で12月10日、市の老人福祉センターを慰問し、得意のハーモニカと軽妙な話術でお年寄りを楽しました。

福島さんは戦時中、インドシナを転戦、終戦と同時に捕虜になり、昭和21年5月に復員したときは、戦災で両親と盲人の妹さんが一度に亡くなっていました。

このため生活にゆとりのできた10年前から戦友に習ったハーモニカで体の不自由なお年寄りを励まそうと全国行脚の旅を始められたものです。

福島さんが訪れた福祉施設は

3,000箇所及び、伊万里市は今回で4度目です。老人センターでは懐かしのメロディーに手拍子で歌い出す人もいて2年ぶりのハーモニカおじさんの名演奏を楽しみました。



▲額から汗を流して大熱演の福島さん



あの人この人

No. 7

小笠原 隆さん (49歳) 大川内町

秘窯の里、大川内山一鍋島藩の御用窯として日本屈指の磁器が焼かれたこの伝統の地に生まれ、伊万里市で初めて日本工芸会の正会員になった方がいます。

今回は、この人小笠原隆さん(49歳)を訪ねました。

小笠原さんは昭和48年の日本伝統工芸展で初入選以来、今回の28回同展に青磁のつぼで4度目の入選を果たし、念願の正会員になりました。

生粋の陶芸家だった亡父長春さんの三男として、幼いころより薫陶を受け、独学で陶磁史や技法の研究に取り組み、15年前に伝統の鍋島青磁で多重貫入(ひび焼)の技法を完成しました。

「中国の青磁に憧れて、あまりにこだわっていたが、所詮ものまねにすぎない。この風土に培われた藩窯の土で、日本の青磁があってよいのではと考え、研究に励んだ」と語る小笠原さん。

焼き物のことになると、いつまでも話はつきません。

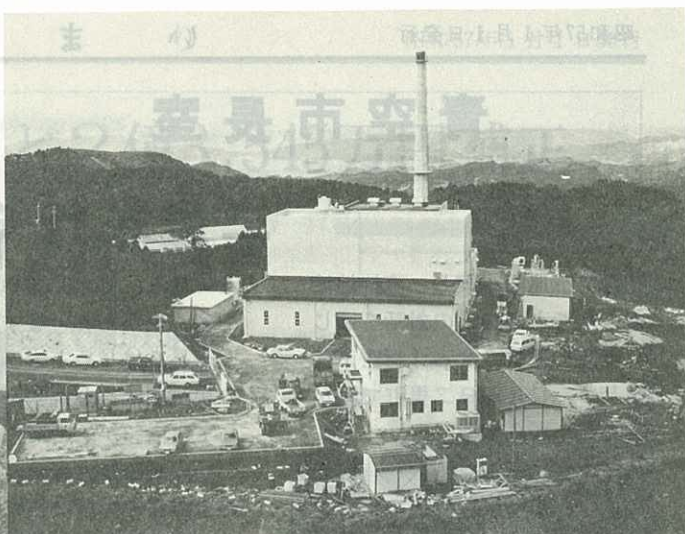
今日の小笠原さんは、妻の富美子さんの支えがあったからこそ。そこで、その苦勞に酬いて北海道へ旅行されたそうです。



▲新たな構想を胸に仕事に励む小笠原さん

▼牧島公民館落成まじか

今月末の落成をめざして急ピッチの工事が進んでいます。完成すれば牧島地区待望の公民館として地域のより所となるでしょう。



▲黒川町立目地区に完成間近の環境センターの全ぼう

4月の稼動を前に近代的な施設がほぼ完成。これまでの2倍の能力があり当分ごみは安心です。

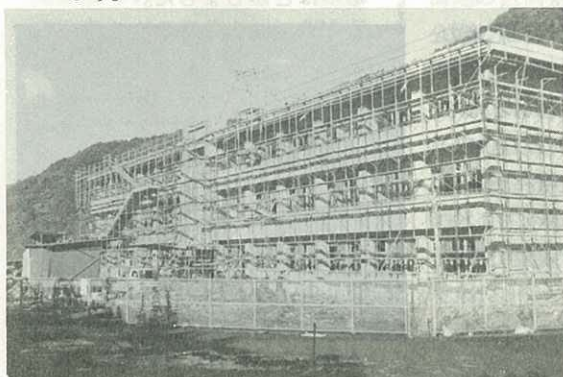
▼国見台にひらける厚生年金休暇センター

50億の巨費を投じて建設される休暇センターは広大な敷地に基礎工事が始まっています。



▼山峡に自然と調和した滝野小学校の勇姿

国見山系の中にある滝野小学校が2月末の完成をめざして近代的な校舎に生まれ変わろうとしています。



新春に

響け
"つちおと"



▲北部老人センター建設着工

波多津公民館前に11月起工式が行われた北部老人センターもいよいよ工事が始まりました。

▶牧島小学校体育館ほぼ完成
老朽化が激しかった講堂に代わり
りつばな体育館がもうすぐ完成で



青空市長室

二里を行く

各町を巡回視察し、直接地域の人たちと市長との対話を通じて市政に反映させる「青空市長室」が、11月30日二里町で開かれました。

二里町は、国見山系と有田川に挟まれた田園地帯ですが、中心市街地に近いこともあり、宅地造成や住宅開発がいたるとこ

ろで進み、排水問題や道路問題を多くかかえています。

市長をはじめとする関係担当の視察団は、金武駅を出発点として町内13か所で26件の内容についてそのつど現地で地元の人から説明を受けました。

二里町では、道路関係が12件と一番多く、中でも生活用道路としての舗装の要望が多くなっています。そのほか住宅急増に伴ない排水対策が6件となっており日常生活に密着した問題や要望が多かったようです。

青空市長室も今回が8回目、市街地を除きほとんど



▲地区の人たちと談笑する竹内市長

地区別飲酒運転検挙者数

(S56.11.31現在伊万里警察署調べ)

地区名	1月～10月	11月	累計
伊万里	5	0	5
大坪	7	1	8
牧島	11	3	14
立花	16	2	18
大川内	7	3	10
黒川	10	2	12
波多津	3	3	6
南波多	4	0	4
大川	4	1	5
松浦	4	3	7
二里	8	0	8
東山代	7	2	9
山代	25	1	26
市外	39	8	47
計	150	29	179



11月

貿易実績は21億9,256万円で前月比15億2,427万円の減。

【輸出】 15億7,308万円

【輸入】 6億1,948万円

【船舶の入港】 17隻

(日本船4隻、外国船13隻)

【寄港地上陸許可者数】

368人(フィリピン250人、中国39人、韓国50人、英国2人、マレーシア16人、オランダ5人、ポルトガル4人、スペイン1人、ビルマ1人)

巡回したことになります。

今後も市民と市長の対話の中から地域の実情に応じた施策や伊万里市将来の方向を見定めて、市と市民が一体となった行政を進めるために、建設的な市民の意見を市政に反映させていかなければなりません。

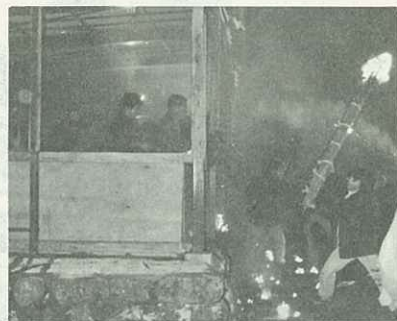
炎のトイウェー祭29年ぶり復活

二里町大里の八幡宮で12月の初卯の日(12/2)に29年ぶりに取り追う祭(トイウェー)が勇壮に行われました。

この祭は南北朝時代、肥後の豪族菊地武重が北朝方の足利尊氏に敗れ、八幡宮の宮司となり再興の機を伺ったという言い伝えによる神事です。昭和28年に若者の減少などで中断していましたが、地元の強い要望で復活したものです。

祭は833個の御供さん(強飯)

を守る者とそれを奪う50人程の若者にタイマツの火の粉をかける勇壮なもので、場内は興奮のつぼとしました。



▲炎の中でも若者の意気さかん

国見台にあいにく 善意の寄贈

伊万里ロータリークラブは、創立20周年を記念して12月8日太陽電池付きの時計塔を国見台公園に寄贈しました。

時計塔は5mの高さで「どこからでも見える」と好評です。

またライオンズクラブからも10日にホルトの木10本が贈られ国見台の緑化に一役かいました。



ロータリークラブから贈られた時計塔



▲植樹をするライオンズのメンバー

1月の市民会館行事予定

- ・毎週金曜日 9:30・12:30受付
運転免許更新時講習会
- ・6日(水) 18:00~22:00
参議員補欠選挙立会演説会
- ・10日(日) 7:00~24:00
参議員補欠選挙投票・開票
- ・15日(金) 10:00~14:00
昭和57年度成人式
- ・20日(水) 12:00~16:00
伊万里地区母子保健大会

岩本さん内閣総理大臣から感謝状



東山代町大久保の岩本判三さん(73歳)は、豊富な行政経験をいかし、長年行政相談員として活躍され、昨年11月に内閣総理大臣から感謝状を受けられました。

これは、住民の行政への不満

や苦情の解決を住民の立場に立って尽力され、行政の民主化、福祉の増進、権利の擁護などに大きく貢献されたその功績が認められたものです。

特設人権相談

人権・相続・不動産などの問題について人権擁護委員と法務局職員が相談に応じます。

<伊万里会場>

- ▲日時 1月19日 10時~15時
- ▲場所 市役所市民相談室
- ▲担当 人権擁護委員
池田一郎氏

<南波多会場>

- ▲日時 1月22日 10時~15時
- ▲場所 南波多公民館
- ▲担当 人権擁護委員
小島満義氏

<波多津地区>

- ▲日時 1月29日 10時~15時
- ▲場所 波多津公民館
- ▲担当 人権擁護委員
古川美年氏

土地開発(1,000㎡以上)は市と協議を

最近、土地造成で水田や沼地の埋立てが進み、水はけが悪くなり、雨が降れば家屋へ浸水するとか山林や原野の宅地造成では土砂まじりの濁水が水路や河川に流れこむなどの苦情が多くなっています。

これらの多くは無届けの埋立てや土地造成によるものです。

無届けなどの開発は、環境保全条例(1,000㎡以上の土地開発は市と協議し、その同意が必要)にも違反し、環境の悪

化に加え、隣接者とのトラブルの原因にもなります。

今後、造成、埋立、切土など土地開発(1,000㎡以上)をされる方は、事前に市と協議し、同意を受けてください。

また1,000㎡以下の開発であっても、特に問題のある地域では、協議の必要があります。

詳細についてのおたずねは、市役所建設部都市開発課まで。

(☎③ 2111 内線 342)

ご存知ですか？市中小企業金融制度

市内中小企業者の設備の拡充や経営改善のために伊万里市中小企業振興資金や公共事業関連中小企業事業資金があるのをご存知ですか。

これらは中小企業の運転資金や設備資金として、貸付限度額

還付申告は早めに 受取りは銀行振込で

確定申告の時期が近づきました。多額の医療費を支払ったり住宅を新築した方などは、確定申告によって税金が返ってくる場合があります。

この還付申告は、1月からできますので早目をお願いします。

なお、還付金は金額の多少にかかわらずすべて銀行（農協、信用金庫）振込みで受取ることができます。

詳しくは、税務署にお気軽にご相談ください。（☎③3147）

300万円（特認500万円）で年利8.5%、貸付期間は5年以内の月賦又は一括払いとなっております。公共事業関連資金は運転3年、設備5年）貸付対象者は、市内に店舗、工場などを有し、1年以上事業を営んでいる方で税金完納者などとなっております。この制度についてのお尋ねは商工観光課（☎③2111内356）へ。

各町の同和教育巡回講座には多数の方が出席して、日ごろの考えや疑問点などの本音を聞かせていただき年々関心の高まりに私達も力強く、また嬉しく思っています。

今回はその中から主な質問を取りあげたいと思います。

①いつまで同和教育をするのか

同和教育問題は人権にかかわる重要な問題であり、同和教育は部落差別を解消するのが目的です。そこで現に

市民課窓口だより

市役所市民課や出張所の窓口では今年1月から、戸籍、住民票、印鑑証明など諸証明の交付申請のときは、窓口に見えた方の印鑑が必要となります。

これは人権上の問題で個人のプライバシーを守る立場から実施されるもので、責任の所在をあきらかにするものです。

なお電話依頼の場合は、受領の際に押印をお願いしますのでご協力ください。

れた人権への理解が十分でないことになります。

対話は人間だけに与えられた特権です。どうか皆さんが進んで対話の機会を持ち、お互いの気持を理解するように努めましょう。

③部落の人が分散したらどうですか。

部落差別はどこに住んでいても追いかけてくると言われます。

地区外に住んでいる人でも部落出身者ということで差別を受けている

職業訓練生募集

▲訓練科目

【科目】	〔定員〕	〔訓練期間〕
機械科	20名	2ケ年
自動車整備科	15名	〃
塗装科	10名	〃

▲願書受付期間

57年1月18日から2月12日まで

▲入校選考及び合格発表

- 選考内容 面接試験
- 選考日時 2月19日午後1時
- 合格発表 2月27日

※詳しくは伊万里総合高等職業訓練校へ（☎⑧0155）

同和教育巡回講座から

差別がある以上啓発活動を進め私達の社会を住みよいものにしていかねければなりません。

②思ったことを言えば差別にはならないか。

私達の暮らしのルールとして他人を傷つける言葉は慎しむべきであり、また心にもない言葉は逆に相互に不信を生みかねません。

「さわらぬ神にたたりなし」と特定の人や被差別部落の人との対話を避けるような考え方は、憲法で保障さ

現実があるのです。

「居住、移転の自由」が憲法で保障されていますから、意に反する移転は人権の侵害と言えます。

今日までの根強い部落差別のため被差別部落の人々は「気心の知れた者同志」お互いが支え合う暮らしをするより他に方法がなかったのです。

要は差別のない住みよい社会を築いていくことが問題解決への私たちの務めではないでしょうか。

（次号に続きます 社会教育課）

県芸術文化功労賞に 竹下さん



今町にお住いの竹下実恵子さん(69才)は、長年琴の教師や

市の文化連盟の副会長として文化の発展に貢献され、11月3日県文化団体協議会から芸術文化功労賞を受けられました。

竹下さんは、6才のときから琴を習い、芸一筋に50数年生きてこられました。今回の受賞を記念して市文化連盟に10万円を寄付されました。

消防出初め式は1月17日

伊万里市消防団出初め式が次のとおり行われます。

▲日時 1月17日 9時50分

▲場所 駅通り～消防本部

〈お詫びと訂正〉

先月の子ども話し方大会の記事で最優秀の原研次君(滝野中)を国見中と誤っていたしましたのでお詫び申しあげ訂正いたします。

- ・山浦 茂(亡妻恵子 山代町峰)
- ・大川 定(亡父年雄 大川町立川)
- ・丸尾 定(亡父年雄 波多津公民館)
- ・市丸繁雄(亡父廣吉 波多津町筒井 北部老人いこいの家建設資金へ)
- ・【南波多公民館】
- ・梅村富雄(亡祖母キヨ 南波多町笠樵)
- ・谷 成敏(亡父未男 南波多町井手野)
- ・【牧島公民館建設資金】
- ・池田アサヨ(亡夫米作 木須町木須西)
- ・松尾光男(亡父正己 瀬戸町本瀬戸)

外国人の方も 国民年金に入ろう

昭和56年度の国民年金法の改正により、今年1月1日から外国人の方も国民年金に加入することになりました。

これは、わが国が難民条約に加入することから、すべての外国人に適用することとしたものです。日本に居住する20歳から59歳の外国人で被用者年金制度に加入していない人が対象となります。詳しくは、市役所年金係まで。(内線215)



おおむかしの伊万里展

会館 9:00~16:00

市歴史民俗資料館では、新春の1月8日から3月20日まで、おおむかしの伊万里展を開きます。これは古代の伊万里の生活や様子を遺物や資料で探るもので私たちのルーツを知る手がかりともなります。

主な展示品は、石器、土器、堅穴住居などがあります。ご家族でおいでください。



次のかたからご寄付をいただきました。厚くお礼申し上げます。

社会福祉事業費へ

- ◆香典返しを寄付
- ・佐々木弘(亡妻ヒサオ 黒川町塩屋)
- ・瀬戸口誠剛(亡父繁次 立花町西円)
- ・原口ヒサヨ(亡夫仁蔵 松浦町下分)
- ・谷 成敏(亡父未男 南波多町井手野)
- ・池田文人(亡父五郎次 二里町内の馬場)
- ・丸尾 定(亡父年雄 大川町立川)
- ・本岡新吉(亡母キン 浜町)
- ・吉富伊藤次(亡母コノ 二里町中田)
- ・岩政テル(亡夫松幸 瀬戸町本瀬戸)
- ・柳本村市(亡父訂治 黒川町畑川内)
- ・岸川勝佐(亡母コト 東山代町里)
- ・田中義隆(亡母ハマ 立花町富士見ヶ丘)

- ・岩橋勝幸(亡父久太郎 脇田町脇田)
- ・前山達夫(亡父常次 西有田町大木)
- ・川村忠子(亡母ギン 相生町)
- ・土井良治(亡祖母エキ 山代町桶久津)
- ・川原辰雄(亡父駒太郎 二里町中)
- ・山浦又作(亡妻ヨシ 脇田町陣内)
- ・山浦 茂(亡妻恵子 東山代町長浜)
- ・平山政利(亡父米吉 大川町駒鳴)
- ・高木正春(亡父徳七 二里町吉野)
- ・松尾正己(亡長女由佳 立花町西円)
- ◆篤志寄付
- ・五千元 伊万里青年会議所 高橋慶彦チャリティーサイン会の益金
- ・二万円 樋渡キミ(大坪町下古賀)
- ・県社会福祉大会受賞記念として
- ・八万円、九万円 ドライブショップ一信店
- ・長桜木照夫 交通遺児に対する激励金
- ◆教育振興奨励基金へ
- ◆香伝返しを寄付
- ・木下文夫(亡長女久美子 栄町)
- ・西田登喜夫(亡妻春代 滝野小学校へ)
- ◆篤志寄付
- ・クライミングタワー13基、移動懸重機2組
- ・山代東PTA、山代東小学校指定
- ・体育振興奨励基金へ
- ・一万円 中島絃一 新天町
- ◆明るいまちづくり推進資金へ
- ・【山代公民館】

いまり歴史散歩 その

——伊万里の由来——

市郷土研究会 原口 静雄

伊万里という地名は、私たちの遠い先祖が生活していく必要から命名したもので、長い年月のうちに生長発展して現在に至っています。

それではどのようにして生まれたのか探ってみましょう。

「伊万里」とは条里田に由来するもので、今から710年ほど前の鎌倉時代の中ごろ、この地方を領有していた源留^{みなもとのとんる}という人がその子源勝^{みなもとのまさる}に田地を譲り与えた記録（伊万里文書）に、次のことが書かれています。

「伊万里四坪壺反肆杖」読み方は伊万里四の坪壺反四杖、肆は四のことで杖は2畝のことです。「大野里二北肆反」この意味は大野が里の2の坪、北の4反のことです。また「伊万里三坪参段参杖・岐須里三坪参段三杖」とか「加志田里伍段参杖」などが記されており、伊万・大野・岐須・加志田などの地名に里がついていることに注目してください。岐須は現在では木須、大野里は大川内町吉田付近、加志田は大坪町にその地名が残っている古い地名です。

里とは条理制の6町平方の区画地をさすもので、起源は大化の改新以前にさかのぼりますが、大規模に実施されたのは大化の改新で班田制が始められ、この

便宜のために条里制は設けられました。里は東西南北に走る道や溝で畦を造って、6町×6町の面積をさし、里の連なりを条と名付けました。さらに里を36等分し、1の坪、2の坪……と



▲大坪町のいまと呼ばれる山がある………今岳の遠望。

新しい年を迎え、広報では郷土いまりの昔の姿を訪ねる「いまり歴史散歩」を連載することにしました。ふるりの歴史を身近なものとして郷土研究会の先生に執筆していただきますのでご愛読ください。

数え36の坪と番号をつけました。

このひとつは1町(100㎡)で当時の坪は1町の面積でした。

ですから、伊万里文書にある伊万里四坪とは「伊万」と呼ばれる「里」の四番目の「坪」という場所を指し、その中の壺反四

杖の面積ということです。

面積36ヘクタールの狭い「里」につけられた岐須里が今日の木須町になり、伊万里が湾を含む伊万里市域に拡大した地域の地名にまで発展したのです。

今回は子どものページはお休みです

おとなが捨てて こどもが拾う？

市スポーツ少年団のマラソン大会が11月29日に国見台で行われ、500人の小・中学生が元気に走りました。

そのあと国道202号線バイパス沿いでカン拾いを行い、トラックいっぱい空きカンの山を築きました。



▲僕たちが集めた空かんを見てください。